



放課後の
居場所を
応援しよう

こたつ会員

募集してます！

こたつ会員とは？

みかん箱のこども会員を応援するのが「こたつ会員」です。
みかん箱のことが好きで応援する人は誰もが会員です。
「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を一緒に実現しませんか？



みかん箱のことが好きで気になる人は
誰もが会員です。手続不要。
こたつ会員を自由に名乗ってください。
会員証がありますのでお使いください。

くわしくはコチラ！



こたつ会員の役割 ①

口コミ

ご近所や職場のみなさんに
「函館のみかん箱って面白い
らしいよ」と伝えてください。
特にこども会員の保護者の
皆さまよろしく願います。

こたつ会員の役割 ②

フォロー・シェアする

気に入ったポストがあれば「いいね！」
やシェアしてください。ご自身のSNSで
みかん箱のホームページをご紹介
ください。

こたつ会員の役割 ③

みかん箱通信を読む・配る

広報誌『みかん箱通信』を読んで
応援してください。配布場所を探して
います。店頭や職場に置いてくださ
る方はお問い合わせください。

こたつ会員の役割 ④

視察・見学する

実際に活動の様子を見ていた
だくことが応援につながります。
みかん箱のホームページから
お申込みください。

こたつ会員の役割 ⑤

ボランティアをする

みかん箱の運営にはおとなの力が
必要です。探究塾では小学生の
学習支援を、ベースキャンプでは
中高生のやりたいことを応援します。

こたつ会員の役割 ⑥

寄付をする

こどもが育つ環境を支える
ため、函館の「みかん箱」に
ご寄付をお願いします。
クレジットカードまたは
銀行振込にて。

まずは1000円。
コチラから！



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

みかん箱運営報告

小学生会員数	13人
中学生会員数	10人
ボランティア数	7人
非常勤職員数	6人
常勤職員数	1人

(2026年9月30日時点)

編集後記

みかん箱の活動と通信の発行は、日本財団の助成を受けて行っています。今年度が助成の最終年度。これからもみかん箱のこと、もっともっと知っていただきたいです。こどもにもおとなにも、大きな実りがあります。来年度も続けていけるよう、引き続き応援よろしくお願いします！

(編集員：福田)

みかん箱通信 秋号 No.10

2026年9月30日発行

一般社団法人みかん箱
〒040-0053
北海道函館市末広町9-9
電話 0138-84-5762

●発行人：曾我直人
●デザイン：スギナカモモコ
●みかん箱通信編集員：
押野友美、福田琢磨
花田有紀

Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

子ども
第三の
居場所

無料



みかん箱通信

秋号No.10

2026年9月30日発行



実り豊かな函館・西部地区

おいしいもののあるところには人が集まるもの。みかん箱でも、食べ物が人をつないでいます。もちろん食欲の秋ですけど、読書の秋でもあります。もうすぐ『世界に一冊だけの本・展』がはじまります。毎年この時期は、みかん箱の子どもたちと本を作っていますが、今年も素敵な本ができました。『本・展』にも人が集まりますように。(スタッフ こがめいづる)



— こどもがいくところ、おとながいるところ —

焼く！遊ぶ！釣る！作る！食べる！



おしのともみの
きになることを、きいてきました！

探究塾のこども達に聞きました！ 最近印象に残っている 探究塾の活動

アイスクリーム(実験)

卵を割って、牛乳いれて、ふって作った

バニラのような味だった

甘くておいしい味

作る工程は時間分るけどね

売れるわ

ヨーグルト(実験)

(ふたの裏は) つるつるだった

(技術について) 知らなかった

はこだて国際民俗芸術祭

ホットドック食べた

ロングポテト

はなだ ゆき 花田 有紀さん(おとな)

7月から探究塾、ベースキャンプでこどもと過ごし「思った以上に楽しい」と笑顔。ベースキャンプのこどもから、釣りをしたいと意見があり、8月の天気の良い日みんなと一緒に釣りに出かけた。仕掛けを学び、見事サバを釣ったこどもは、魚を釣り上げた時の感覚に感動。「釣れたときの笑顔がたまらない」。

その後は、釣れた魚を持ち帰り一緒に竜田揚げにして「腹ごしらえ」で味わった。だいたいのこどもは魚が苦手だが、自分達で釣った魚を大事に調理してみんなで食べるのは格別だったはず。こどもから「魚の捌き方もやってみたい」と意見もあり、「様子を見て少しずつできた」。

また、ある日はバーベキューをしたいと言う話で盛り上がり、近くの広場へ行き炭おこしから始めて、バーベキューをした。「ちょっと焦げたお肉も、かけすぎた塩胡椒も、みんなで囲むバーベキューは楽しくて美味しい」。

活動を通じてこども達一人ひとりの思いを引き出したり、友達をつないだりいろいろな関わりができる。「ここは(こどもが)ありのままの自分を出せる場所。それが楽しいにつながると思っている」。

しばた かな 柴田 香名さん(おとな)

今年2月に探究塾を見学した時、「おとなとこどもが同じ目線に立っていると感じた」。以来、探究塾のおとなに仲間入り。色々な環境でのこどもたちの様子やこれからの教育に興味を抱く中で、「こどもたちと一緒に小さな発見や、心動く瞬間を大切にしたいと思い、一員になりたいと思った」。

探究塾では、カカオベルトや生産国の暮らしを知り、フェアトレードなどについて学ぶ「チョコレートと世界のつながり」、氷と塩で温度が下がる性質を利用したアイスクリームを作る「塩と氷のひんやり科学」、紫キャベツの色素に液体を加え、色が変わる様子を観察する「紫キャベツのカラフル実験」など身近な食べ物を入り口に、科学や社会、世界へとこどもたちの興味を広げる。「季節にあったもの、身近なものから『なぜ?』『どうして?』というものを見つけ、こどもと一緒に失敗も笑い合って学んでいます」。

探究塾はアットホームな雰囲気、学校と家とはまた違うこどもの一面がみれる。「常に笑顔があり、新しい発見がある」と語り、「こどもたちには、ここで自分で『好き』を見つけてほしい。私自身も一緒に世界を広げていけたら」と期待している。



🍷 化学反応でアイスクリームづくり 🍷 「神社公園」で BBQ
🍷 芸術祭で昔遊びをプロデュース 🍷 海で手に入れた宝物アート
🍷 大森浜でピクニック